

里地通信

4月号

発行：里地ネットワーク事務局
東京都港区西新橋1-17-4西新橋YKビル6階
(財)水と緑の惑星保全機構内
電話：03-3500-3559 FAX：03-3500-3841

早いもので、里地ネットワークも、アツという間に設立から1ヶ月が過ぎてしまいました。
皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。
さて、事務局内では、この1ヶ月どたばたと、事務所の移転や体制づくりにつとめてきました。

引越完了しました

里地ネットワークは、3月18日に、渋谷区表参道の環境パートナーシップオフィス(環境庁民間活動支援室)から、港区西新橋にある(財)水と緑の惑星保全機構内に移転しました。ようやく設立準備事務局から脱皮し、3月末には、専用の棚やデスクも入り、本格始動します。

新しい住所は、

東京都港区西新橋1-17-4西新橋YKビル6階(〒105-0003)

(財)水と緑の惑星保全機構内 里地ネットワーク

電話：03-3500-3559 FAX：03-3500-3841

携帯電話：020-247-2114 E-Mail QWS04137@niftyserve.or.jp

事務局長：竹田純一、事務局：源氏田尚子、原田和央(なお)

4月からの事務局体制

里地ネットワークの事務局に、日本大学農獣医学部林学科の原田和央(なお)さんが、ボランティアとして参加します。原田さんは、現在大学3年生で、4年生に進級せず広く社会を見ようと、とりあえず、3ヶ月間(4月~6月)事務局の一員となり情報の整理や発信を担います。竹田、源氏田ともどもどうぞよろしくお願ひします。原田さんは、3月24日から4月3日までアジアで国際ワークキャンプを実践している団体「NICE」にて、かねてより実践している三重県大宮町での「蛍の郷づくり」のワークキャンプに参加し、4月6日頃事務局に合流する予定です。原田さんも、ちょっと目を離すとすぐに里地に入って出てこなくなりそうな性格なので、当分の間はおいしいような話で誘わないようにしてください。ボランティアメンバーは引き続き募集しています。電話、FAX、メールをお待ちしております。

事務局の活動予定(まったく未調整)

- ・会員名簿の入力とFAX情報網、電子メール情報網の整備作業、ホームページの開設準備作業
- ・訪問 島根県水と緑の連絡会議
- ・岩手県東山町のシンポジウム準備
- ・里地共生事業に関する計画の立案作業
- ・里地共生事業のガイドライン検討
- ・循環型社会構築のための市民政策提言に関する検討 等を予定しています。

【4月以降の訪問予定先】

大学や研究所を直接訪ねて顔の見えるネットワークを築き、個別具体的な研究を、教授や研究室の博士、修士、学士の方々とともに行ないたいと考えています。海外ではあたりまえの産官学の共同研究を里地ネットワークで行なうつもりです。近県から研究室を訪問したいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

訪問予定先

・東京農工大学千賀裕太郎教授、NIRA、環境文化研究所、社会調査研究所、日本大学藤沢校舎白岩隆己教授、武蔵工業大学小堀洋美教授、農水省農業研究センター長谷山俊郎先生、筑波環境技術研究所、信州大学飯田実教授、信州大学花里孝幸教授、島崎元教授(島崎山林研修所)、京都大学内藤正明教授、北海道早稲田大学赤松平川義英先生、京都大学岡田憲夫教授

事務局からのお知らせ

この1ヶ月、問い合わせと入会の申し込みを多数いただいています。予想以上の反響にやや事務作業が遅れています。ご迷惑をおかけしますが、もう少しお時間をください。会員名簿は現在作成中です。

3月までの事務局活動

【広報活動】

里地ネットワークを広く里地と都市に知ってもらうために、広報活動を積極的に行っています。心を同じくする人々が記者の方々の中にもいることを確信し、共感の輪を大切にしながら、少しずつ広げていきたいと思えます。里地のことを書いていただいたのは、以下の記者の方々です。ひきつづき、取材をしていただいています。会員の皆さまも、積極的な広報活動と、より多くの人々に「里地での自然と経済が共生できる社会」「循環型地域社会」の提案を行なってください。

広報一覧

平成9年

11月 毎日新聞(生長恵記者)

「里地ネット設立へ」田園景観保全目指し

平成10年

2月6日(木) 日本農業新聞(鈴木祐子記者)

「守れ日本人の心の古里」産学官・里地ネット旗揚げ

2月13日(金) 時事通信社(檜山茂記者)

2月13日(金) 共同通信社(矢野裕記者)

2月14日(土) 毎日新聞「里地ネット設立シンポ」

2月15日(日) 読売新聞(論説委員室)

「編集手帳」里地ネット設立

2月15日(日) 茨城新聞

「里地活性へ都市連携」ネットワーク25日設立

2月15日(日) 福島民友

「都市と連携し里地を活性化」25日にネットワーク設立

2月16日(月) 愛媛新聞「都市と連携し里地を活性化」

2月16日(月) 長崎新聞

「里地ネットワーク設立へ・都市と連携し活性化」

2月18日(水) 朝日新聞(大村美香記者)

「田園生かすネット発足25日にシンポ」

2月21日(土) サイアス(3・6号佐藤栄邦記者)

「田舎のニーズと都会のシーズ結び合って里地ネット」(

2月24日(火) 日刊実業報知

「里地ネットワーク設立記念シンポジウム2月25日開催」

2月28日(土) 毎日新聞(田中泰義編集委員)

「自然共存・地域に活力・過疎化にも歯止め」

3月2日(月) 日本経済新聞(近藤英次記者)

「里地で活動の手助け、行政や企業がネット」

3月2日(月) 熊本日日新聞(宮下記者)「地域おこし

に環境の視点・循環共生型社会を人材・情報を都市と連携」

3月6日(金) 全国農業新聞(池田辰雄記者)

「山地と平場のはざま地域・里地の可能性をいかそう」

3月11日(水) 林政ニュース「里地ネットワーク発足」

3月18日(水) 社会経済生産性新聞「地域に密着の旅提案・新しいふるさとづくりめざすネットワーク」

3月22日(日) NHK(小高雅章チーフプロデューサー)

ラジオタ刊 18:18~18:49「里地ネットワーク設立」

3月20日(金) 全国農業新聞(寺山義雄記者)

「人物登場：里地で自然と共存」「岩魚と山女を追って」

3月27日(土) 読売新聞(石原健治記者)「顔」

自立した人はムラにいる

3月31日(火) 朝日新(星野哲記者)

関西日本版「経済自立探り地域作り」

3月号 林業小学校(斉藤恵巳編集長)

「里地ネットワーク設立」

次号 日本野鳥の会会報(坪内まおみさん)

【活動メモより(年始より3月中まで)】

里地ネットワークの里地共生事業のヒアリングを兼ねて、以下の里地や事務所を訪問しました。

- ・岩手県東山町：東北砕石工場跡地。宮沢賢治をはじめとする文化を伝える「太陽と風の家」を現在計画中
- ・山形県長井市：長井市役所、生ゴミ堆肥システムレインポープラン長井の里地
- ・山形県高島町：米沢郷牧場、循環型農業、BMW技術
- ・山形県上山町：鈴木秀峰園(有機農園サクランボ、ブドウ)、百枚田、ピオオトープ、森林散策道
- ・茨城県筑波市：農林水産省農業研究センター・長谷山先生
- ・東京都新宿区：NICE 国際ワークキャンプ、国内ワークキャンプの実施団体
- ・東京都豊島区：今井俊博先生~モンスーンアジアと日本を探るスライド。土、水、木の文化
- ・長野県諏訪市：諏訪環境まちづくり懇談会、諏訪臨湖研究所・飯田実教授
- ・長野県伊那市：島崎洋路先生に森林塾の話を伺う
- ・高知県高知市：高知生態系協会(グランドワークによるメダカの池づくり他)
- ・熊本県小国町：小国ドーム他
- ・高知県池上町、佐川町：国土庁、環境庁、農水省、林野庁の共同調査に随行

セミナー開催のお知らせ

(参加希望の方は、事務局宛 FAX でご一報ください)

<エコミュージアムと里地おこし>

(第2回里地セミナー)

地域資源の発掘の技法と事例を学びましょう。

『エコミュージアムとは、フランスの博物館学者アンリ・リベールが1970年代に提唱した新しいタイプの博物館概念であるが、従来のハコものイメージの博物館概念とは大きく趣を異にする。エコミュージアムの目的は「地域社会の人々の生活とそこの自然及び社会環境の発達過程を生態系的立場から歴史的に提案し自然及び文化遺産を過去から現在にわたって保存し、育成展示することを通じて地域社会の発展に寄与することにある。それは、遺産を生きた形で現地で保存し施設を分散型にネットワークによりも住民と行政の共同作業によって創られるものであるいわば終わらない運動として「地域住民が現在及び将来の地域生活や地域文化をどう創り育てていくか研究する場を提供し、過去から積み重ねてきた遺産を保護し、それらを学ぶ場である。フランスで展開しているエコミュージアムを見ると、実際には地域の研究所・環境保全センター・観光拠点といった多様な姿をとっている。我が国においても、地域振興の新たなビジョンとして導入をはかろうとする自治体が多いようだ』

(日本環境教育フォーラム、エコツーリズム研究会のレポートの抜粋)

日時：5月8日(金)13時30分～17時

参加費：会員無料(一般の方は、資料代1000円)

場所：環境パートナーシッププラザ

講師：

大原一興氏(横浜国立大学工学部助教授・日本エコミュージアム研究会事務局長)

菅井正人氏(生活地理研究所代表 [山形県朝日町在住]朝日町エコミュージアム研究会副代表)

嵯峨創平氏(まちづくりプランナー・日本エコミュージアム研究会理事)

<地元学と里地おこし>

(第3回里地セミナー)

水俣市役所の吉本さんから、吉本さんの水俣における地元学の実践と陸前高田をはじめとする各地での地元学実践の事例と手法を学びましょう。

地元学とは、地元の地元による地元のための情報づくりによって、活力ある地域づくりを目指すもの。学問ではなく、地元学ぶということ。地域の風土と生活文化の厚みがものをつくり、地域をつくっていく。地域づくりには、地域の風土と生活文化の把握・充実が欠かせない。地元の自然、風土、産物、伝説、出来事などを歩いて、探して、調べて、まとめる。調べたものをつないだり重ねたりすると、なぜこうなっているのか、それまで見えにくかったものやことが浮かび上がってくる。地元学は郷土史のようにただ調べるだけのものではない。地元学とは、地元の人が主体になって、よその人の視点や助言を得ながら、地元のことを知り、地域の個性を自覚することから始まり、外からの否応のない変化を受けとめ、または、内発的に地域の個性にてらしあわせたり、自問自答しながら考え、地域独自の生活(文化)を日常的につくりあげていく知的創造行為である。

日時：5月9日(土)10時～13時

会員無料(一般の方は、資料代1000円)

場所：環境パートナーシッププラザ

14時～17時は、エコミュージアムと合同で、ミニワークショップ兼 討論会形式で行います。

講師：水俣市役所環境課 吉本哲朗氏

会場の環境パートナーシッププラザは、

地下鉄表参道駅下車3分、国連大学の1階。

参加のお問い合わせ、お申込は、

里地ネットワーク事務局まで。

最終ページの申込書をご利用ください。

今後の予定

4月22日(水)18時30分～

ドイツシュムシャー川流域250kmに及ぶ流域環境まちづくり事例視察報告会

主宰：バルディーズ研究会の循環型社会研究部会
報告：高杉晋吾先生

場所：東京都内詳細未定(資料代あり)

5月30日(土)

長野県伊那谷の島崎山林研修所にて、セミナーと森づくり講習会

5月31日(日)

長野県天竜川水系にて環境ピクニック。(KOA株式会社の取り組み紹介)

6月から8月

グラウンドワーク、パー、アカルチャー、エコツ

